

別記様式

会 議 録

| | |
|-------------------------------------|--|
| 会議の名称 | 平成28年度 第2回 栃木東部地域会議 |
| 開催日時 | 平成28年5月25日 開会19時00分 閉会20時20分 |
| 開催場所 | 栃木市国府公民館 小会議室 |
| 出席委員氏名 | 五十嵐 記代子、大橋 哲夫、大山 恵久、荻島 哲、柏崎 桂二、 柏崎 章吉、神田 誠司、島田 秀夫、竹澤 克元、武政 晃、 内藤 實、埴生 才喜、藤本 紀子 |
| 欠席委員氏名 | 神戸 透、倉持 好則、谷中 俊太郎 |
| 事務局職員職氏名 | 大宮公民館長 伏木 広安、国府公民館主査 毛塚 隆 |
| その他出席者等 | 危機管理課長 榎本 佳和、同課長補佐兼防災係長 國府 泰浩 |
| 会議事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年9月関東・東北豪雨災害に関する検証報告について（報告） ・地域協議会等から提出された意見に対する市の対応状況について（情報提供） ・平成28年度地域予算提案について |
| 会議の公開又は非公開の別 | 公開 |
| 傍聴人の数 | 0人 |
| その他必要事項 | |
| 会議の経過 | |
| 発言者・議題・発言内容・決定事項 | |
| 1 開会 | 司会：伏木 館長 |
| 2 あいさつ | 柏崎 会長 |
| 3 議事 | |
| 議 長 | ・本日の出席委員数について、事務局から報告願う。 |
| 事務局 | ・栃木東部地域会議の委員総数は16名のところ、本日の出席委員は13名である。 なお、神戸委員、谷中委員からは所用のため欠席との連絡をいただいている。 |
| 議 長 | ・全委員の過半数の出席であるため、本日の会議は成立している。 |
| （1）平成27年9月関東・東北豪雨災害に関する検証報告について（報告） | |
| 議 長 | ・事務局から説明願う。 |
| 担当課 | ・（資料「平成27年9月関東・東北豪雨災害に関する検証報告書（概要版）」に基づいて説明） |
| 議 長 | ・何かご意見・ご質問があればお願いしたい。 |
| 委 員 | ・田本や田下にもスピーカーが設置されたが、よく聞こえない。何メートルくらい聞こえるものなのか。 |
| 担当課 | ・もともとの音量、周囲の車の通行や風向きにもよるが、約300メートルの範囲まで聞こえるものである。今はスピーカーから音が出ていることの確認のため試験的 |

に音楽を流しているが、緊急時はより大きい音で流したい。スピーカーの設置を始めた平成26年度には15か所、27年度には49か所に設置した。スピーカーを使ってみて問題点が出てきた。緊急時にはスピーカーからの言葉だけでは情報を伝え切れないので、サイレンで住民に何かが起きていることだけを伝え、実際に何が起きているかは住民にテレビやラジオで情報収集していただく方法に切り替えることも考えている。

委員 ・初動体制の強化に必要な人員は何名くらいか。

担当課 ・今後、災害対応マニュアルの作成を予定しており、その作成の中で、どんな業務に何人必要かを整理する。栃木市は今まで災害が少なく、行政としても対策への意識が足りなかったことも反省点である。

委員 ・巴波川の対策はどうするのか。

担当課 ・今回は巴波川の内水氾濫というもので、ハード面での解決にはお金と時間が相当かかる。まずは被害を最小限にするため、住民の避難を早める対策を考えていきたい。夜間に避難所に行くのがかえって危険な場合などは、自宅の2階へ避難するなどの避難のあり方を検討したい。

委員 ・巴波川に流すのではなく、どこか他に溜めることはできないか。

担当課 ・50年に1度と言われる豪雨対策に、お金をどこまでかける必要があるのか、時間もかかるため難しいところである。どこかに大きな調整池を作るようなことは現実的ではないと考える。

委員 ・近いうちに大きな地震があると思う。全てが後手後手になっている。地震についての対策は考えていないのか。

担当課 ・(手持ちの「栃木市地域防災計画」を示しながら)この計画に地震についての対策等も載っている。

委員 ・それならば安全だ。

担当課 ・計画があるから安全なのではなく、計画どおりに行動できるかどうかが大切になる。行政も実行するが、市民の方々も自分の身は自分で守るということを大前提に考えていただくことも必要になる。

委員 ・FMラジオはいくらくらいするのか。

担当課 ・先日、市が800台の入札を執行した。1台約11,300円だった。災害の際に自動で電源が入る機能を組み入れて受注生産しているので値段が高くなってしまふ。そこで、検証報告のとおり、購入費の3分の1あるいは4分の3を市で負担する。

委員 ・今回の災害で、ここに来ている何人が避難情報を聞いているか。私は翌日に聞いた。サイレンや晩鐘を避難情報の伝達に使えないのか。避難を周知する方法を早く考えないといけない。防災ラジオだけでも早くやらないといけないと思う。

担当課 ・災害発生当時、FMからは開設していなかったもので、防災ラジオは使えなかった。当時、市内には防災無線のスピーカーが15か所しかなく、ほとんど機能していなかった。避難勧告や避難指示を知らせたのは、消防団の消防車や市の広報車だった。市民の方々にお願いしたアンケートの結果からも、水害を受けている場所でさえ避難勧告を知らなかった、消防署や消防団が個別に来て初めて知った、という状況が分かった。

- 委員 ・昔は火災や大水の時に火の見やぐらとかを使ったが、今は使っているのを見たことがない。今はスピーカーを使うようだが、その点の見直しはしなくてもよいのか。
- 担当課 ・昨日、街中で火災があり、5か所でサイレンを流した。今年度から消防団が出動する際に、消防署が地区限定で防災無線スピーカーからサイレンを流している。スピーカーが増えたので活用できるようになった。
- 委員 ・スピーカーからの声よりもサイレンの方が聞こえ易いから、災害の種類ごとにサイレンの回数や音を分けて、それを住民に周知するとよい。
- 委員 ・普段から住民への啓蒙が不足しているように思う。
- 委員 ・75歳以上の世帯に防災ラジオが置かれるようになるとよい。
- 委員 ・市は啓蒙をしているのか。無いに等しいと思う。その点が報告書の反省に出てきていない。また、なぜ藤岡の排水機場を水没する所に作ったのか。動かなくなった理由も報告書に出ていない。自家発電も動かなかったのか。その反省点が出ていない。
- 担当課 ・確かに、この報告書にはその反省点は出ていない。
- 委員 ・この報告書は不備だと言いたい。
- 委員 ・国府地区では工業団地周辺の水害が想定されているが、発生で決壊する想定か。堤防は今ままでいいのか、もっとしっかりすべきか。住民の避難を徹底するだけしかないのか。もともと水害が想定されていたが、今回被害が無かったから安全だと放っておかれるのではないか。対策を進めて国府地区から浸水区域を無くしたい。
- 担当課 ・河川整備については所管課ではないので回答しかねる。当課としては安全に避難していただくための方法を示すだけになってしまい、申し訳ない。
- 委員 ・今は皆さんケータイを持っている。緊急地震速報は該当する地域限定で行うシステムになっている。これを活用して市などに限定して水害などの情報を伝達できないか。ラジオよりも早く伝わると思う。
- 担当課 ・緊急防災メールは行政単位ででき、市からも流せるが、取り決めが複雑で情報を流す判断が難しく、国としても問題点になっている。今回夜中に大雨特別警報が発表された時点で気象庁は流す基準を満たしていなかった。市の避難勧告を合わせれば流せるという縛りがあった。その後、常総の件もあって基準が変わり、大雨特別警報では気象庁から直接流せる仕組みになった。次の時には皆さんにメールが送られることになる。地域限定の災害でも全市に流れてしまうので、ためらいもあるが、なるべく流せる情報は流すように進めていきたい。

(2) 地域協議会等から提出された意見に対する市の対応状況について (情報提供)

- 議長 ・事務局から説明願う。
- 事務局 ・(資料2ページ「地域協議会等から提出された意見に対する市の対応状況(栃木東部地域)」に基づいて説明) 質問などは各担当課へお願いしたい。
- 議長 ・皆さんからご意見・ご質問があればお願いしたい。 (※ 意見・質問無し)

(3) 平成28年度地域予算提案について

- 議長 ・事務局から説明願う。
- 事務局 ・(資料3、4ページに基づき説明)
- 議長 ・何かご意見・ご質問があればお願いしたい。

- 議長 ・今年度の地域予算は国府地区で使わせていただきたい（委員から、異議無し、の声）。
何人かの委員さんから、今回は大塚運動広場整備ではなく国庁まつり舞台整備の方がよいと伺っている。この会議でどちらにするか方向付けをしたい。
- 委員 ・４ページの写真のようなテントをイメージしているのか。
- 委員 ・仮設のテントで、舞台は舗装するような方向で事務局とも話している。
- 委員 ・市員のテントは見栄えがよくない。
- 委員 ・国庁跡と大塚運動広場、どちらも重要だが、国庁跡の方でよいのではないか。
- 委員 ・次回が大塚運動広場の整備ではどうか。
- 委員 ・テントが厚いか薄いかや、組み立てる人の簡便さも検討するとよい。
- 委員 ・今までの会議では、市の一大イベントの国庁まつりの会場の整備を優先した方が、まつりが盛り上がりよ、という意見になったと思う。大塚運動広場の整備は、２９年度に下水道が整備されてからでもよいのではないか。
- 委員 ・使う頻度は、国庁跡は年に一度の国庁まつりで、大塚運動広場は毎日だ、という人もいる。
- 委員 ・地域予算でテントを購入したら、大宮のイベントでも使わせてもらおうとよい。また、地域予算を使うのが大宮、国府の順になったが、その次は大宮でという約束はしない方がよいと思う。
- 議長 ・今年度の地域予算提案は、国庁跡整備事業で進めさせていただく。
- 委員 ・資料の委員名簿の中で、「公簿」の「簿」は「募」の間違いではないか。
- 事務局 ・間違いなので、お詫びし、訂正させていただく。

（４）その他

- 議長 ・（新聞記事の切り抜きを委員で回覧しながら）皆川がまちづくり実働組織の認定第１号になった。東部も早く認定になるように何かやって欲しいと言われている。皆川は城址公園の整備で意見がまとまっている。今後、吹上と寺尾が認定申込をする。
- 委員 ・国庁跡や室の八島は歴史が古い。蔵の街を宣伝するより、こちらの方がより価値がある。街の中ではなく国府地区に観光に来てもらうようPRしないとだめだ。他には無いのだから。芭蕉も来ているし、東山道という日本で初めての通りがあったところだ。
- 委員 ・国庁跡への進入路の整備を県にお願いした。
- 委員 ・学生３０人を国庁跡に観光案内したことがある。その下見をした時に、草がぼうぼうで管理されていないため市に話したが、予算が無いからできないと言われた。その後、ある議員さんをお願いし、県に話してもらったら即やってくれた。大宮地区には古い史跡が無くて困っている。
- 委員 ・思川の向こう側には、国分寺や尼寺がある。当時の町長さんの取組で、だいぶ上の人を動かしたようだ。通っていたはずの東山道が、国府でも大宮でもその跡が発見されていない。残念ながら、下野市と栃木市では首長の取り組み方、力の入れ方が違う。遅れを取り戻すよう働きかけていきたい。

４ その他

- 事務局 ・次回会議は６月２２日（水）１９時から大宮公民館で開催する。 以上

